

1 沖縄全戦没者追悼式



写真提供 沖縄県

開催概要 (平成25年度)

歳事名：沖縄全戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：平和祈念公園
 住所：沖縄県糸満市字摩文仁444 (公園管理事務所)
 (糸満バスターミナルより 琉球バス交通「平和祈念堂入口」下車 徒歩5分)
 日時：平成25年6月23日(日) ※例年6月23日開催
 参列者数：約5,800人
 連絡先：沖縄県 福祉保健部 福祉・援護課 098-866-2177 (直通)

式次第 (平成25年度)

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 開式の辞 | 6. 平和宣言 |
| 2. 式辞 | 7. 「平和の詩」朗読 |
| 3. 黙とう | 8. 来賓あいさつ |
| 4. 追悼のことば | 9. 閉式の辞 |
| 5. 献花 | |

平和宣言 (平成25年度)

私たちは、68年前の戦争で多くの尊い命とかけがえない文化遺産や美しい自然を失い、生涯癒やすことのできない深い痛みを負いました。

戦後、米軍の施政権下にあつて、人権と自治の回復を渴望し、自らの運命を開拓する自覚と魂のもとに行動を続け、本土復帰を実現しました。

私たちは、たゆまぬ努力と幾多の困難を乗り越えて、郷土に誇りを持ち、発展の歩みを続けています。

しかし、沖縄は、今なお、米軍基地の過重な負担を強いられています。

日米両政府に対して、一日も早い普天間飛行場の県外移設、そして、日米地位協定の抜本的な見直しなどを強く求めます。

私たちは、沖縄戦の教訓を継承するとともに、わが国が築いてきた平和主義の堅持を強く望むものであります。

慰霊の日に当たり、全戦没者のみ霊に謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、恒久平和の実現を目指して、県民の強い思いと英知を結集してまい進していくことを宣言します。

平成25年6月23日
 沖縄県知事 仲井 弘多

平和の詩 (平成25年度)

「へいわってすてきだね」
 久部良小学校 一年 安里 有生

へいわってなにな。
 ぼくは、かんがえたよ。
 おともだちとなかよし。
 かぞくが、げんき。
 えがおであそぶ。
 ねこがわらう。
 おなかがいっぱい。
 やぎのんびりあるいてる。
 けんかしてもすぐなかなおり。
 ちょうめいそうがたくさんはえ、
 よなぐにうまが、ヒビーンとなく。
 みなどには、フェリーがとまっていて、
 うみには、かめやかじきがおよいでる。
 やさしいところがにじになる。
 へいわっていいね。へいわってうれしいね。
 みんなのころから、
 へいわがうまれるんだね。

せんそうは、おそろしい
 「ドダウン、ドカーン。」
 ばくだんがおちてくるこわいおと。
 おなかがついて、くるしむこども。
 かぞくがしんでしまってなくひとたち。

ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。
 このへいわが、ずっとつづいてほしい。
 みんなのえがおがずっと、つづいてほしい。

へいわなかぞく、
 へいわながっこう、
 へいわなよなぐにじま、
 へいわなおきなわ、
 へいわなせかい、
 へいわってすてきだね。

これからも、ずっとへいわがつづくように
 ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。

2 平和の礎



基本情報

所 在：平和祈念公園
 住 所：沖縄県糸満市字摩文仁444（公園管理事務所）
 （糸満バスターミナルより 琉球バス交通「平和祈念堂入口」下車 徒歩5分）
 建 立 者：沖縄県
 建 立 年：平成7年6月23日
 連 絡 先：沖縄県平和祈念財団 098-997-2765

碑 文

【表】

沖縄戦で亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ記念碑
 （沖縄県出身者：満州事変に始まる15年戦争の期間中の戦没者を対象）

同 英語、韓国語、中国語 表記

3 しづたまの碑



基本情報

所 在：平和祈念公園
 住 所：沖縄県糸満市字摩文仁444（公園管理事務所）
 （糸満バスターミナルより 琉球バス交通「平和祈念堂入口」下車 徒歩5分）
 建 立 者：沖縄県遺族連合会
 建 立 年：昭和44年6月
 連 絡 先：沖縄県平和祈念財団 098-997-2765

碑 文

【表】

しづたまの碑

【表下部】

碑文

<p>第二次世界 大戦において 沖縄は祖国防 衛の決戦場と なり その戦 闘は熾烈を極 め一家全員戦 火に斃れ祖国 に殉じた戦没</p>	<p>者はその数一 千五百余柱に 及んでいる これらの尊 きみ霊の慰霊 顕彰につい ては終戦以来深 く心を砕いて きたが 今回 ここに財団法 人沖縄財団の 寄進を得て</p>	<p>しづたま（鎮魂） の碑 を建立 するとともに 毎年日を定め 供養を行ない その悲壮な事 実を後世に伝 える 一九六九年六月 財団法人 沖縄県遺族連合会</p>
--	---	--

4 沖縄工業健児之塔



基本情報

所 在：平和祈念公園内
 住 所：沖縄県糸満市字摩文仁628
 （糸満バスターミナルより 琉球バス交通「平和祈念堂入口」下車 徒歩5分）
 建 立 者：沖縄県立工業高校同窓会
 建 立 年：昭和44年6月
 連 絡 先：沖縄県平和祈念財団 098-997-2765

碑 文

【表】

沖縄工業健児之塔
 森戸長男謹書

説 明 文

昭和二十年乙酉六月四日午前七時
 字摩文仁百六番地徳村氏の屋敷
 内に於て艦砲直撃にあい同級生九人即死
 沖縄県立工業学校進級二年生
 通信隊暗號班九人之霊骨を蔡る

（故人名）

其他之五人の氏名が不明

5 沖縄師範健児之塔



基本情報

所 在：平和祈念公園に隣接
 住 所：沖縄県糸満市字摩文仁548
 （糸満バスターミナルより 琉球バス交通「健児の塔入口」下車 徒歩3分）
 建 立 者：沖縄師範健児之塔遺族会
 建 立 年：昭和21年3月
 連 絡 先：沖縄県平和祈念財団 098-997-2765
 うちなーサポート うーとーとおきなわ 098-894-3344

碑 文

【表】

沖縄師範健児之塔

説 明 文

昭和二十年三月三十一日、第二次世界大戦の最中、沖縄師範学校全職員生徒は、軍命により、第三十二軍司令部の直属隊「鐵血勤皇師範隊」として軍に動員された。

然るに同年六月二十二日、南西諸島方面軍最高司令官牛島満中將が自決するに及び師範隊は解散するに至った

が、この間、総員四百八十名中三百有餘名が守備軍と運命を共にしたのである。こゝに、生存者達の手によって「慰霊の塔」が建立されたのであるが、更に太田昌秀外間守善編「沖縄健児隊」出版並びに同名映画の上映記念事業として、廣く江湖の有志の方々の御援護の下に、

この「平和の像」は建てられたのである。若い身命を捧げて散った師友人の冥福を祈ると共に、それらの尊い殉死によって齎された平和への祈願を永久に傳えるべく生存者達は心から祈るものである。

發起者
 沖縄師範学校生存者

6 平和祈念公園マップ



提供 沖縄県

7 魂魄の塔



基本情報

所 在：平和創造の森公園
 住 所：沖縄県糸満市字米須1441-3
 (糸満バスターミナルより 琉球バス交通「米須入口」下車 徒歩17分)
 建 立 者：沖縄県遺族連合会
 建 立 年：昭和21年2月(平成元年補修)
 連 絡 先：沖縄県遺族連合会 098-834-2811

碑 文

【表】

魂 魄

【裏】

にぎたまと なりてしづもる おくつきの
 みとこの上を わたる潮風

説 明 文

この地は今次大戦でも一番の激戦地であり、日本軍も住民も追いつめられて逃げ場を失い、陸、海、空からの攻撃を受けて、敵弾にあたって倒れた屍が最も多い激戦地の跡である。

戦後、真和志村民が収容移住を許された所で村民及び地域住民の協力によって、道路、畑の中、周辺いたる所に散乱していた遺骨を集めて祀ったのがこの魂魄の塔である。

祭神三万五千余柱という、沖縄で一番多く祀った無名戦士の塔であったが、その後、昭和五十四年二月摩文仁の丘に国立沖縄戦没者墓苑が完成し、遺骨は同墓苑に分骨して安置してあります。

和魂となりてしづもるおくつきの
 み床の上を渡る潮風

建立年月日 昭和二十一年二月

財団法人 沖縄県遺族連合会

8 開南健児之塔



基本情報

所 在：平和創造の森公園
 住 所：沖縄県糸満市字米須575
 (糸満バスターミナルより 琉球バス交通「米須入口」下車 徒歩17分)
 建 立 者：開南中学同窓会
 建 立 年：昭和46年5月
 連 絡 先：開南中学同窓会 個人宅のため記載せず

碑 文

【表】

開南健児之塔

【銘刻碑】

開南中学校戦没者
 (故人名)

経 緯

沖縄戦で命を落とした私立開南中学校の戦没者を祀っている。

出典：沖縄県平和祈念財団著「沖縄の慰霊塔・碑」より

9 ずみせんの塔



基本情報

所 在：米須(西)交差点付近
 住 所：沖縄県糸満市字米須1137-1
 (糸満バスターミナルより 琉球バス交通「米須入口」下車 徒歩1分)
 建 立 者：瑞泉同窓会
 建 立 年：昭和23年8月8日
 連 絡 先：瑞泉同窓会 個人宅のため記載せず

碑 文

【表】

ずみせんの塔

説 明 文

ずみせんの塔

ずみせんの塔は、第二次世界大戦沖縄戦で戦死した沖縄県立首里高等女学校看護隊並に職員同窓会員の御霊を祭ってある。昭和二十年一月二十五日から軍医の講習を受け、引続き合宿訓練に入った

後、三月二十七日野戦病院壕で卒業式を挙行、直ちに第六十二師團、石部隊野戦病院に配属され最前線の浦添から首里、摩文仁へと負傷兵を看護しつつ、泥濘の中を弾雨に叩かれ、奮闘したが惜しくも散華したのである。

10 梯梧之塔



基本情報

所 在：ひめゆり第一駐車場奥
 住 所：沖縄県糸満市字米須1150
 (糸満バスターミナルより 琉球バス交通「ひめゆりの塔」下車 徒歩すぐ)
 建 立 者：梯梧同窓会
 建 立 年：昭和23年6月(昭和46年6月23日移設)
 連 絡 先：喜名自治会 個人宅のため記載せず

碑 文

【表】

梯梧之塔

説 明 文

梯梧の塔説明碑文

梯梧の塔は、昭和46年6月23日、旧校舍跡より、ゆかりの地に移転。母校の校歌「梯梧の花の緋の誠」にちなんで、「梯梧の塔」として建立された。
 昭和20年1月25日より約1月間の看護教育を受け、3月6日、17名(4年生)は、第62師団野戦病院(石5325)へ学徒看護隊として、ナゲーラの壕へ配属された。

4月1日、地上戦が始まるや、日を逐うて前線からの負傷兵が激増、壕の中は、まるで生き地獄、昼夜の別なく看護は続いた。4月29日学友の中から最初の戦死者が出る。ナゲーラの壕は満杯で収容できず、9名は第二分院の識名の壕へ移動した。壕の中で休息中、飛んで来た破片で学友2名が戦死。戦況の悪化で5月末、武富、米須、伊原へと後退。米軍は物量にものを言わせて猛攻撃は止むことなく、伊原の地で6名戦死。病院としての機能を果たす事ができず、6月19日、隊に解散命令が出た。

無念にも学業半ばにして、戦禍の中で犠牲になった、同窓生57名と、職員3名、計60柱が合祀されている。

勝利を信じ若くして御霊となった学友の永遠に眠る南部終焉の地に建立、恒久平和を願いつつご冥福を祈っている。

所在地 糸満市米須1150番地
 建立年月日 昭和46年6月23日(移設)
 敷地面積 70坪
 合祀柱数 60柱
 管理者 梯梧同窓会
 慰霊奉賛会と永久管理契約済

11 ひめゆりの塔



基本情報

所 在：ひめゆり平和祈念資料館に隣接
 住 所：沖縄県糸満市字伊原672-1
 (糸満バスターミナルより 琉球バス交通「ひめゆりの塔前」下車 徒歩すぐ)
 建 立 者：真和志村
 建 立 年：昭和21年4月
 連 絡 先：ひめゆり平和祈念資料館 098-997-2100

碑 文

【表】

ひめゆりの塔

教師・学徒 戦没者
 沖縄師範学校女子部 百十五名 氏名表記
 沖縄県立第一高等女学校 百十二名 氏名表記

説 明 文

ひめゆりの塔の記

昭和二十年三月二十四日島尻郡玉城村港川方面へ米軍の艦砲射撃が始まった。沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の職員生徒二百九十七名は、軍命によって看護要員としてただちに南風原陸軍病院の勤務についた。

(中略)

日本軍の首里撤退もせまった五月二十五日の夜南風原陸軍病院は重傷患者は壕に残し歩ける患者だけをつれて、手を引き肩をかし砲弾をくぐり、綱帯をちぎって道しるべとしてここ摩文仁村に移動した。

(中略)

六月十八日いよいよ米軍がま近にせまり、看護隊は陸軍病院から解散を命ぜられた。翌十九日第三外科の壕は敵襲を受けガス弾を投げこまれて地獄絵図と化し、奇跡的に生き残った五名をのぞき職員生徒四十名は岩に枕を並べた。軍医・兵・看護婦・炊事婦等二十九名、民間人六名も運命をともにした。その他の壕にいた職員生徒たちは壕脱出後弾雨の中をさまよひ沖縄最南端の断崖に追いつめられて多く消息をたった。南風原陸軍病院に勤務した看護要員の全生徒の三分の二がこうして最期をとげたのである。

(中略)

乙めらは涙と血を流してえた体験を地下に埋めたくないと平和へのさびきを岩肌に刻みながらついに永遠に黙した。

12 白梅之塔



基本情報

所 在：南禅廣寺に隣接
 住 所：沖縄県糸満市字真栄里1837-1
 （糸満バスターミナルより 琉球バス交通「国吉」下車 徒歩13分）
 建 立 者：白梅同窓会
 建 立 年：昭和22年1月（平成4年改修）
 連 絡 先：白梅同窓会 個人宅のため記載せず

碑 文

【表】

白梅之塔

【裏】

うめ
 散りてなほ 香りい憂し 白梅の花
 元教諭 金城宏吉
 昭和二十二年一月建立

説 明 文

白梅之塔

沖縄県立第二高等女学校の四年生五十六名で編成された白梅学徒看護隊は、昭和二十年三月六日第二十四師団（山部隊）の衛生看護教育隊に入隊し、補助看護婦として特別集中教育を受けていた。米軍の艦砲射撃が激しくなった同月二十四日から、東風平町富盛の八重瀬岳にあった同師団の第一野戦病院に軍属として配置され、昼夜別なく傷病兵の看護に専念した。戦況は毎日に悪化し、同年六月四日遂に白梅隊に解散命令が下り、隊員は散り散りになって戦野を彷徨し、一人またひとりと戦火に斃れていった。その場所は殆ど不明である。また、解散後この地に後退した山第一野戦病院に、再び合流した一部の白梅隊員は、同年六月二十一、二十二の両日に亘り、米軍の猛攻撃を受け無念の最期を遂げた。この辺一帯は、白梅隊員の最も多くの犠牲者が出た所である。塔は、戦没した白梅隊員及び沖縄戦で戦死、或いは戦争が原因で亡くなった教職員・同窓生百四十九柱の鎮魂と、世界の恒久平和を祈念して昭和二十二年一月に建立した。毎年六月二十三日の「慰霊の日」に例祭が行われる。

平成十年 六月二十三日
 沖縄県立第二高等女学校 白梅同窓会

13 翔洋碑



基本情報

所 在：沖縄県立沖縄水産高等学校
 住 所：沖縄県糸満市西崎1-1-1
 （糸満バスターミナルより 琉球バス交通「西崎小学校入口」下車 徒歩8分）
 建 立 者：沖縄水産学校同窓会
 建 立 年：昭和37年11月（昭和53年3月移設）
 連 絡 先：沖縄県立沖縄水産高等学校 098-994-3483

碑 文

【表】

翔洋碑

沖繩水産

【裏】

昭和五十三年三月建立

説 明 文

建立の詞

昭和十二年七月七日支那事変勃発し続いて十六年十二月八日第二次世界大戦となって戦禍は益々熾烈を窮め二十年八月十五日古今未曾有の人類の悲劇は終末を告げたのであります其の間吾が沖縄県立水産学校も幾多の教職員及び同窓生を支那大陸又は南溟の地に送り或いは郷土防衛の楯となったのであります勇戦奮闘も空しく多数の戦死者を出したのでもあります

特に沖縄が第二次大戦の戦場と化するに及んで一年生は通信隊として球部隊に二年三年生は鉄血勤皇隊として石部隊に召集編入され直接戦闘に参加したのであります戦いわれに利あらずあたら春秋にとむ身を護国の神となつて散華したのであります此處に吾等同窓生並びに関係有志はこれら戦没勇士を追慕し英霊の御冥福を祈ると共に永遠の世界平和を祈願してこの塔を建立するものであります。

一九六二年十一月吉日
 沖縄水産学校同窓会

14 一中健児之塔



基本情報

所 在：首里金城町 養秀会館前
 住 所：沖縄県那覇市首里金城町1-7
 (沖縄都市モノレール 儀保駅 徒歩15分)
 建 立 者：養秀同窓会
 建 立 年：昭和25年4月30日
 連 絡 先：養秀同窓会 (養秀会館内) 098-885-6437

碑 文

【表】

一中健児之塔

【表右下部】

よどみなく ふるいはけみし健児らの 若き血潮そ 空をそめける

説 明 文

沖縄県立第一中学校
 鐵血勤皇隊 通信隊 學徒兵並職員 沖縄戦戦没者

沖縄県立第一中学校は昭和二十年(一九四五年)沖縄戦に際し軍命により 藤野憲夫校長以下職員生徒一同が 一中鐵血勤皇隊の一隊を結成し 二年生は軍の通信隊要員として動員され 終始軍と行動を共にし 年若い一年生も戦火に巻き込まれ その多数が尊い生命を學業半ばに散らしたことは痛恨の極みである

養秀同窓会は 國學創建二百年 沖縄県立第一中学校 首里高等学校 創立百二十年記念事業として 戦没者の氏名を刻銘し 御霊を慰め かかる事が再び起きない様に 永遠の平和を祈念する

15 二中健児の塔



基本情報

所 在：城岳公園
 住 所：沖縄県那覇市楚辺1-2-54
 (沖縄都市モノレール 県庁前駅 徒歩10分)
 建 立 者：城岳同窓会
 建 立 年：昭和32年12月29日 (平成2年11月22日移設)
 連 絡 先：城岳同窓会 098-867-2525

碑 文

【表】

二中健児の塔

説 明 文

建立の詞

一九四五年第二次世界大戦の終末戦となった沖縄戦において沖縄県立第二中学校職員生徒は軍命により、或は鉄血勤皇隊として、北部の防衛に當り、或は通信隊に参加して首里以南の山河に馳駆し、其他防衛隊又は軍属として各地に勇戦奮闘中、表記の勇士はついに壮烈なる戦死を遂げられました。

茲に、母校及び其後継那覇高等学校職員生徒、同窓会員遺家族並びに一般有志相諮り、曾ってはスポーツに競った奥武山の此のゆかりの聖地を卜し沖縄県立二中健児の塔を建立して以て英霊の至誠を追慕し、冥福を祈り永遠の世界平和を祈願するものがあります。

一九五七年十二月二十九日
 二中健児之塔建設期成会
 会長 山城篤男

16 積徳高等女学校慰霊之碑



基本情報

所 在：大典寺
 住 所：沖縄県那覇市松山1-9-1
 (沖縄都市モノレール 県庁前駅 徒歩4分)
 建 立 者：積徳高等女学校 ふじ同窓会
 建 立 年：平成12年11月
 連 絡 先：大典寺 098-868-3491

碑 文

【表】

積徳高等女学校慰霊之碑

【右側碑】

ここに積徳高等女学校慰霊碑に
 刻名された方々は 去る沖縄戦で
 戦死 戦病死なされた教職員 在
 校生 卒業生 当時の四年生で
 学徒看護隊に動員された 戦没者
 の皆様です

御霊よ 永久に 安らかにお眠
 りください 合掌

積徳高等女学校 ふじ同窓会
 平成十二年十一月吉日 建立

17 和魂の塔



基本情報

所 在：沖縄県立那覇商業高校
 住 所：沖縄県那覇市松山1-16-1
 (沖縄都市モノレール 県庁前駅 徒歩8分)
 建 立 者：那覇商業高校同窓会
 建 立 年：昭和33年11月23日
 連 絡 先：沖縄県立那覇商業高校 098-866-6555

碑 文

【表】

和 魂

経 緯

沖縄に米軍が上陸する直前の3月末、中学生に対し学徒隊として動員令が下った。那覇市商工学校の生徒は鉄血勳皇隊を組織し、主に通信隊に入隊。無線、暗号、情報の教育を受け従軍した。学徒隊員として学業半ばにして犠牲となった那覇市立商工の生徒や職員165人が合祀されている。

出典：沖縄県平和祈念財団著「沖縄の慰霊塔・碑」より

18 農林健児之塔



基本情報

所 在：野國總管公園
 住 所：沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納
 （那覇バスターミナルより 琉球バス交通「嘉手納」下車 徒歩10分）
 建 立 者：沖縄県立農林学校同窓会
 建 立 年：昭和38年2月12日（平成17年6月23日再建）
 連 絡 先：嘉手納町教育委員会 098-956-1111（代表）

碑 文

【表】

農林健児之塔

【裏】

建立記

昭和六年（一九三一年）の満州事変から、昭和二十年（一九四五年）の第二次世界大戦終戦に至る十五年戦争において、五百有余の同窓生および教職員が、沖縄を始め、中国大陸、また南方地域において犠牲となった。
 就中太平洋戦争の激戦地となったわが沖縄では、学業半ばにして徴兵され、また鉄血勳皇隊農林隊として学徒出陣し、多数の農林健児があたり若い命を落とした。
 われわれは、これら戦死された方々の犠牲を無にすることなく、悲惨な戦争を再び繰り返さぬよう不戦の誓いを堅持し、茲に生命と平和の尊さを訴え、永く戦没者の名を留め、鎮魂慰霊の誠を捧げるため農林健児之塔を建立する。

昭和三十八年（一九六三年）二月十二日建立
 平成十七年（二〇〇五年）六月二十三日再建

沖縄県立農林学校同窓会

19 南橙慰霊之塔



基本情報

所 在：沖縄県立名護高等学校
 住 所：沖縄県名護市大西5-17-1
 （名護バスターミナルより 琉球バス交通「名護高校前」下車 徒歩すぐ）
 建 立 者：南燈同窓会
 建 立 年：昭和31年1月21日（平成13年3月31日移築）
 連 絡 先：沖縄県立名護高等学校 0980-52-2615

碑 文

【表】

南燈慰霊之塔

説 明 文

南燈慰霊之塔

南燈慰霊之塔は、一九五六年「三中健児之塔」として兼久公園に建立された。一九七二年沖縄県立第三高等女学校戦没者を合祀、一九八九年「南燈慰霊之塔」と改名、二〇〇一年にこの地に移転した。
 この塔には、一九三一年に勃発した満州事変から一九四五年に終結した太平洋戦争までに戦没された沖縄県立第三中学校の卒業生・在校生三三九柱、県立第三高等女学校の卒業生・在校生三六柱、計三七五柱の御霊が合祀されている。
 県立第三中学校の卒業生・在校生は、一九四五年三月、軍命により、防衛隊員・鉄血勳皇隊員及び通信隊員として動員され、真部山、八重岳、名護岳、多野岳等で戦ったが、米軍の圧倒的な物量の前に壮烈な最期を遂げていった。

また、県立第三高等女学校の卒業生・在校生も、軍命により女子挺身隊員（軍需工場）・従軍看護婦として動員され、若い命を散らしていった。
 戦没者の御霊を慰めるとともに、悲惨な戦争を二度と起こさないよう、「恒久平和の誓い」としてこの塔を建立する。

二〇〇一年（平成十三年）三月三十一日

沖縄県立第三中学校同窓生及び遺族一同
 沖縄県立第三高等女学校同窓生及び遺族一同
 沖縄県立名護高等学校同窓生一同

20 八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑



写真提供 沖縄県

基本情報

所 在：石垣市バナナ公園
 住 所：沖縄県石垣市バナナ丘
 (石垣空港より 車で約10分)
 建 立 者：沖縄県
 建 立 年：平成9年3月29日
 連 絡 先：沖縄県 福祉保健部 福祉・援護課 098-866-2177 (直通)

碑 文

【表】

八重山戦争マラリア犠牲者
 慰霊之塔

説 明 文

八重山戦争マラリア犠牲者
 慰霊之塔

太平洋戦争の末期、沖縄県八重山地域においては軍の作戦展開の必要性から住民が悪性マラリアの有病地域である石垣島、西表島の山間部への避難を強いられ、過酷な生活の中で相次いでマラリアに罹患し、三千余名が終戦前後に無念の死を遂げるに至った。

国は、終戦から五十年を経た平成八年度に、これら犠牲者の御霊を慰めるため、沖縄県へ「八重山地域マラリア死没者慰籍事業」の助成を行った。この碑は同事業の一環として遺族等からなる「沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会」の協力を得て建立されたものであり、遺族がその思いを込めて御霊の名を小石に記し碑の中に納めてある。

この碑が八重山の戦争マラリア犠牲者の御霊を慰め、その悲惨さを後世に永く伝え、世界の恒久平和創造への礎となることを祈る。

平成九年三月二十九日
 沖縄県知事 大田昌秀

協力 沖縄戦強制疎開マラリア
 犠牲者援護会
 会長 篠原 武 夫
 意匠 潮 平 正 道
 揮毫 玻名城 泰 雄

21 忘勿石の碑



写真提供 竹富町

基本情報

所 在：西表島の南風見田の海岸
 住 所：沖縄県竹富町西表島南風見田の浜
 (民宿南風荘より 車で10分)
 建 立 者：西表在波照間郷友会ほか関係者有志
 建 立 年：平成4年8月15日
 連 絡 先：民宿南風荘 0980-85-5356

碑 文

【表】

忘勿石 ハテルマ シキナ

説 明 文

忘勿石の碑

この一帯は歴史的な戦争マラリアの悲劇の霊境である。一九四五年四月、波照間の住民が軍命によってこの地に強制疎開させられ多くの人々が熱帯マラリアに罹患して、古里の島影を求めながら亡くなった。

その人々の苦悩はまことに筆舌に尽しがたいものがある。学童とともに疎開し、その学童たちの死を見守りながら、浜辺の岩に「忘勿石」と刻んだ識名信升先生の心情は察するに余りあり。

この碑が歴史を語り継ぎ、病没した人々の霊を慰め、平和創造への礎となることを祈り願う。

一九九二年八月
 琉球大学名誉教授
 高良鉄夫